週刊新潮6/29号6月22日発行の
『プロフェッショナルドクターによる難症例の眼科手術第3回』に、
当院の院長 浅見哲先生が取り上げられました。6/29号（2023年6月22日発売）

最先端眼科医療　第３回

プロフェッショナルドクターによる難症例の眼科手術

浅見眼科手術クリニック

愛知県・名古屋・大府 JR「共和」駅 徒歩1分

2021年の夏に開院した専門クリニックに聞く、眼科手術の最前線。今回は、実は恐ろしい「飛蚊症」をテーマに、年間約1300件もの眼科手術を執刀する浅見哲院長にお話をうかがった。

院長
浅見 哲
Tetsu Asami

名古屋大学医学部附属病院の医局長や県内有数の眼科専門病院の副院長などを歴任し、無数の手術を手がけてきた浅見院長。昨年1年間で約1300件もの手術を自ら執刀しているが、緑内障や網膜剥離など難易度もリスクも高い患者を受け容れる姿勢に、地域の医療機関から大きな信頼が集まっている。

症例 03

愛知県岡崎市
Y・Aさん（30代・男性）

30代後半の男性。1か月ほど前のある日、視界に黒い点のようなものが浮かんでいることに気付く。いわゆる飛蚊症と知ったが、どうすることもできず、ひとまず様子を見ることにした。その後、時間が経つほどにモノが見づらくなり、いよいよ視界が悪くなったため近所の眼科クリニックを受診。検査を受けたところ重症の網膜剥離が発見され、2022年8月に浅見眼科手術クリニックを紹介された。なお、この男性はアトピー性皮膚炎を抱えていた。

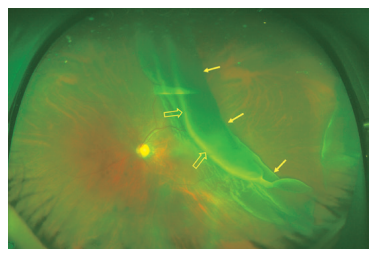
様子を見ていたら重症の網膜剥離に進行

視界に黒い虫のようなものが浮かんで見えて、視線に追従して動いているように感じる飛蚊症（ひぶんしょう）。眼球の硝子体にできた濁りの影が網膜に映ることで、あたかも目の前で浮遊物が飛んでいるように見える症状だ。硝子体は加齢で萎縮して濁りが生じやすくなるため、大半は病気ではなく老化現象の一種。ミドルエイジ以降なら心当たりがおありの方も少なくないだろう。

最初は驚きつつ、生活の中で徐々に慣れてしまう人も多いが、飛蚊症を軽く見ると裏で恐ろしい病気が進行していることがある。本症例は、まだ30代の男性が視野の不調に気付き、約1か月後に最寄りの眼科クリニックで検査を受けたところ、何と重症の網膜剥離が発見された事例だ。すぐに浅見眼科手術クリニックの紹介を受けたが、来院時にはすでに矯正視力が0・04まで悪化。網膜の大部分が剥がれた状態まで進行しており、検査の結果、網膜の隅の鋸状縁という部位に大きな孔が開いていることが分かった。

「眼圧の調整役である房水を産出する毛様体も剥離していたため、眼圧が異常に低下していました。そのほか、硝子体出血に炎症の混濁、さらに白内障なども認められました」（浅見院長）

網膜剥離と聞くと、ボクサーを想像する方が多いだろう。あれだけ壮絶に殴り合うのだから深刻なダメージを負うことも理解できるが、若い一般男性が普通に生活していて網膜が剥がれるようなことがあるのか。だが、眼科手術の経験が極めて豊富な浅見院長は、原因をすぐに見抜いた。



網膜剥離の眼底写真。網膜の一番隅の鋸状縁にほぼ半周の大きな網膜裂孔（黄色矢印）が生じており、剥がれた網膜が眼球の奥に倒れ込み、大きなシワ（黄色白抜き矢印）を作っていた。また、網膜よりもさらに隅にある毛様体にも孔が開き、1/3 周にわたり毛様体が剥がれていた。

アトピー性皮膚炎の方は不調を感じたらすぐ眼科へ

浅見院長によれば、網膜剥離に至った遠因は、何と皮膚の病気。「この男性は、アトピー性皮膚炎をお持ちでした。痒みが酷くなると瞼を擦ったり叩いたりすることになりますが、ご自身で考える以上に眼球が強く刺激されてしまうのです。夜中、知らないうちに痒みを抑えようとして、強く叩いてしまったり」

ここまで進行すると、もはや一般的な眼科クリニックで対処できるレベルではない。浅見院長が執刀した硝子体手術では、まず硝子体の出血や混濁をすべて除去し、輪状締結術を施行。輪状締結とは、眼球の真横の赤道部と呼ばれる部位の全周に幅2ミリのシリコンバンドを巻きつけ、それを絞って眼の内側に向かって隆起を作り、できた隆起に網膜を乗せることである。その後、剥がれている網膜を外側の眼球の壁へと押さえつけるために、シリコンオイルを注入した。さらには、その場で白内障手術も実施するなど、約2時間半の大手術となった。

術後は極めて順調で、約3か月後にオイルを抜いた後、半年後には矯正視力が0・4まで回復。「この種の網膜剥離は視力回復まで時間がかかりますが、ここからさらに半年ほどかければ、まだ向上する可能性があります」とのこと。

中高年では気付きつつも様子見を決め込むことが多い飛蚊症だが、実は網膜に問題があることを示すサインのこともある。重症化すると網膜剥離に陥るわけだが、手術を行っても治らなくて再発を繰り返した場合には、さらに難治性の増殖性硝子体網膜症へと移行することもあるというから、聞くだけでも恐ろしい。

「アトピー性皮膚炎をお持ちの方は、特に網膜の病気のリスクが高いと言えます。本症例のように様子を見ず、飛蚊症を自覚した時点ですぐに眼科を受診することをおすすめします。また、飛蚊症がない方も、皮膚科で痒みのコントロールをお願いし、瞼を掻いたり擦ったりしないようご注意ください」

【院名の意味】「手術」の2文字を院名に入れるのは非常に珍しいが、これは半生をかけて積み上げた経験と技術をひとりでも多くの患者に届けたいという浅見院長の想いの表れ。安心感を覚えるインテリアや近所の音大生らが弾きに来る小型グランドピアノなど、患者想いの姿勢も評価が高い。

浅見眼科手術クリニック
https://asamiganka.com/
スマートフォンをご利用の方はこちらよりアクセス
診療時間・休診日についてはHPでご確認ください
所在地◆愛知県大府市東新町2-165
電話◆0562-46-7700